

## バベル翻訳大学院と翻訳教育において類似の学位付与プログラムをもつ大学との比較

### 目次

1. オンライン通信の翻訳教育プログラムを持つ大学機関との比較
2. アメリカ合衆国内のオンキャンパスの大学機関との比較
3. モントレー・インスティテュートとの比較
4. ケント・ステート・ユニバーシティとの比較

### 要約

1. 我々はアメリカ、カナダ、イギリスのオンライン通信教育で翻訳教育を行っている大学13校との比較を行った。多くの大学が対象言語を多くし、対象文書の分野別（Subject Specialty）教育を行っていないのに対し、バベル翻訳大学院は対象言語を日本語と英語に絞り、細かくセグメントされた対象文書別の翻訳教育訓練を大量に行っている点に特徴がある。提供するコース、履修年限、ファカルティの数はバベル翻訳大学院が他を圧倒している。
2. 我々はアメリカの通学制、オンキャンパス大学で翻訳教育を行っている大学43校との比較を行った。これらの大学の翻訳教育は提供する学位、履修期間、科目において多様性があり比較しにくいだが、バベル翻訳大学院の提供する教育訓練は専門化されているが内容はトップクラスであると確信した。
3. 我々はアメリカの最も評判が高いモントレー・インスティテュートとの比較を行った。モントレー・インスティテュートは通訳、翻訳を教え、9か国言語を広く訓練するのに対し、バベル翻訳大学院は日英言語に絞り、対象文書別の専門化を行うなどの違いがある。
4. 我々はアメリカで翻訳の学位を学士号、修士号、博士号にわたって出すユニークな大学であるケント・ステート大学との比較を行った。修士号のみを出すバベル翻訳大学院と違いはあるが修士号に限れば、バベルの提供する科目が分野別で圧倒的に多い。

## 1. オンライン通信の翻訳教育プログラムをもつ大学機関との比較

### (1) アメリカ、カナダ、イギリスの大学機関

オンライン通信で翻訳教育を提供している大学機関は以下の通りである。

#### (a) アメリカ合衆国の通信教育大学で翻訳教育を行う機関

New York University, Center for Professional Studies

University of Illinois at Urbana-Champaign, Center for Translation Studies

University of Hawaii at Manoa, Center for International and Translation

Adelphi University College Online

(注) Phoenix University, Kaplan University, Walden University などの大手総合通信

教育大学は宣伝上では翻訳も学べるとかいつているが、科目は極めて少なく、翻訳学位も与えるわけではないので、リストからは削った。

#### (b) カナダの通信教育大学で翻訳教育を行う機関

University of Toronto, School of Continuing Studies,

University of British Columbia, Center for Teaching, Learning and Technology,

College University de Saint Boniface

#### (c) イギリスの通信教育大学で翻訳教育を行う機関

City University London, Institute of Linguistics Diploma in Translation,

University of Birmingham,

University of West of England,

Cardiff University Center for Liberty Learning,

Susan James, Institute of Linguists Diploma in Translation,

South Tyneside College, Institute of Linguistics

(2) アメリカ、カナダ、イギリスのオンライン通信教育で翻訳を行っている教育機関を調べたが、特徴は次の通りである。

- (a) アメリカの4校 (NYU, U of Illinois, U of Hawaii, Adelphi U) は U of Illinois を除いて、すべて Certificate Program である。U of Illinois は BA を与える。ただし仏語のみ。他の3校は期間が短い (例 U of Hawaii :11 weeks, Adelphi U :9 months)

カナダの3校 (U of Toronto, U of British Columbia. College, U de Sant Boniface) のうち、2校 (U of T, UBC) は Certificate のみ。U de Sant Boniface は4年制で、Bachelor of Translation を与えるが、仏語のみ。イギリスの6校 (City U London, U of Birmingham, U of West of England, Cardiff U, Susan James, South Tyneside) のうち U of Birmingham と U of West of England のみが MA (MA in Translation and Language Technology) を与える。City U は Certificate であり、Cardiff と Susan James は Diploma in Translation という形で Master Degree ではない。

(b) アメリカ、カナダ、イギリスの各校の翻訳オンライン教育の運営母体は、いずれも大学の中の Institute が運営し、ディプロマやサーティフィケートもその Institute が出している。Institute の名も、アメリカは Center of Professional Studies (NYU) Center for Translation Studies (U of Illinois) Center for International and Translation (U of Hawaii) のようにプロフェッショナルな名がついているが、カナダやイギリスの Institute 名は School of Continuing Studies (U of Toronto) や Center for Teaching, Learning and Technology (U of British Columbia) や Center for Liberty Learning (Cardiff U) のように、入門者向けの Diploma 発行機関のような名がついている。又は Institute of Linguists Diploma In Translation (City U, Susan James), Institute of Linguistics (South Tyneside) のように、言語の研究所のような名がついている。これらは応用言語学のような印象を受ける。トランスレーションの専門性がないように見える。

(3) 教科課程は殆ど全部が数ヶ国語からなるランゲージ制となっており、文芸翻訳、法律翻訳、医学翻訳のような対象文書別となっていない。ヨーロッパ系の言語が多い。入門、上級とコースを分けてはいるが、対象文書別にはなっていない。学生は専門性のない文書の翻訳を訓練するのみであるから、エキスパタイズした翻訳能力を獲得することができないと思われる。

NYU : 仏、独、西、葡、アラブ 5カ国

U of Illinois : 仏のみ 1カ国

U of Hawaii : 中、日、韓 3カ国

Adelphi U : 西のみ 1カ国

U of Toronto : 日、中、韓 3カ国

U of British Columbia : 中、韓 2カ国

College U de Sant Boniface : 仏のみ 1カ国

City U London : 仏、独、伊、西、葡、蘭、アラブ、ポーランド、露、土、チェコ  
11カ国

U of Birmingham、U of West of England : 西、仏、独 3カ国

Cardiff U : 中、アラブ、ポーランド、ギリシャ、マレーシア 5カ国

Susan James : 仏、独、ギリシャ、伊、西、蘭、スウェーデン、露 8カ国

South Tyneside College : アラブ、ベンガル、広東、クロアチア、チェコ、蘭、仏、独、  
ヒンディ、伊、クルド、中、葡、ポーランド、パンジャブ、ルーマニア、露、セルビア、  
西、土、ウルドゥ 21カ国

(注) いずれも英語が対象言語である。

(4) 科目数は平均して 3 単位 10 科目計 30 単位が提供されている。その殆どは Chinese-English Translation というような科目名の実習訓練科目である。

翻訳の理論についての科目は Principle of Translation ,Translation Theory というような科目名の科目が提供されているが 1 科目か 2 科目のみで多くではない。

#### (5) バベル翻訳大学院の比較

バベル PST は以上の通信制翻訳教育の諸大学機関の提供するプログラムに比して次のような特徴がある。

(a) 言語は英日英のみに特化しており多数の言語を扱っていない。学生は日本語と英語に流暢な学生のみを対象としており、より深い翻訳教育を実施している。

(b) 入学学生に翻訳分野のうち、文芸、金融、特許・医学、法律の 4 つのメジャーを選ばせ、それを更に細分化した科目を与えている。文芸翻訳については、ロマンス、ミステリー、ノンフィクション、法律翻訳については契約書、訴訟文書、議事録などのように科目を豊富に提供している。科目数は全体で 87 コース（アメリカ法 30 科目、日本法 7 科目を除外すれば 50 科目）、プロフェッサーは全部で 52 名（アメリカ法・日本法の教授を除外すれば 32 名）である。

(c) 翻訳の理論科目、基本科目は、翻訳英文法、翻訳論研究、世界翻訳史、英語史、異文化コミュニケーションなどを提供しているが、これは比較対象の諸通信教育大学機関に比して十分に多い。

(d) バベル PST の学生の卒業要件は 60 単位（4 単位科目で 15 科目、2 単位科目で 30 科目）であるが、これは比較する諸大学機関よりはるかに多い。卒業までに最短 2 年と設計しているが多くの学生はそれ以上の期間をかけて、充分の学力を付け卒業している。

(e) したがって、バベル翻訳大学院の卒業生は単なる Certificate や Diploma of Institute ではなく、正規の Degree である、Master of Science in Translation を与えられる。

## 2. アメリカ合衆国内で翻訳教育プログラムを持つオンキャンパスの大学機関との比較

- (1) アメリカ合衆国内で翻訳教育をオンキャンパスで提供している大学機関は次に述べる 43 校である。

Arizona State University, Language and Literature

Barnard College, Department of French

Brigham Young University, the Department of Spanish and Portuguese

Brown University, Department of Comparative Literature

Florida International University, Department of Modern Language

Georgia State University, Translation Program

Kent State University, Institution for Applied Linguistics

La Salle University, Bilingual /Bicultural Graduate Studies

Marygrove College, Modern Language Translation

Marymount Manhattan College, Humanities Division

Montclair State University, College of Humanities and Sciences

The Monterey Institute of International Studies

New York University, School of Continuing and Professional Studies

Oakland University, Department of Modern Language and Literatures

Rutgers, The State University of New Jersey, Department of Spanish and Portuguese

San Diego State University Department of Spanish and Portuguese

State University of New York, The University allary Slavic and European Studies

State University of New York, Binghamton University Center of Research in Translation

University of Arizona National, Center for Interpretation

University of Arkansan, Program in Creative Writing and Translation

University of California Riverside, Comparative Literature and Foreign Language

University of Hawaii at Manoa, Center for Interpretation and Translation Studies

University of Iowa, Department of Cinema and Comparative Literature

University of Massachusetts Translation Center

University of Nebraska at Kearney, Department of Modern Language

University of North Carolina at Charlotte, Department of Language and Culture Studies

University of Wisconsin Milwaukee, Department of French, Italian, and Comparative  
Department  
Adelphi University, University College  
Bellevue College Translation and Interpretation Program  
Bingham University, Translation Research institution Program  
Boston University, Center for Professional Education  
California State University Los Angeles, Division of Extended Education  
Gallaudet University Department of Interpretation  
Hunter College of the City University of New York, Continuing Education  
International Institute of Buffalo, New York, Interpreting and Translation  
Department  
Miami Dade College, Inter-American campus, Translation and Interpretation Studies  
Northern Illinois University, Department of Foreign Languages and Literatures  
Southern Nazarene University  
Tennessee Foreign Language Institute  
University of California, San Diego Extension Interpretation  
University of Chicago, Graham School of General Studies  
University of Denver, School of Professional and continuing Studies  
Western Michigan University, Department of Foreign Languages  
University of Texas Dallas, Center for Translation Studies  
American University, Graduate Certificate in Translation

(注)上述の US 大学機関は、ATA (American Translators Association) の Institutional Members Offering Translation/Interpretation) のリスト、及び、ALTA Language Service の US Top Ten Translation School 及び Word2Word の Degree Program in Translation を参考にして選択した。

## (2) 提供する翻訳教育の多様性

上述の各校が提供する翻訳教育は極めて多様である。提供する学位は Certificate in Translation, Bachelor (BA) in Translation, Master (MA 又は MS) in Translation そして PhD に到るまで多様である。PhD を出す大学機関は僅か (Kent State のみ) である。半数が MA、半数は BA または Certificate である。MA は MA in Translation だけでなく MA in Foreign Language, MA in Communication など Translation 以外の名がついているのも多い。履修期間も多様であり、数週間から十数ヶ月のオンキャンパス授業である。MA は 1 年又は 2 年である。

修学する言語も多様であり、15カ国以上を提供する機関（Arizona State U, U of California Riverside）から単に1ヶ国語のみ（仏あるいは西）を提供する機関などさまざまである。多くの機関はヨーロッパ系言語を提供しており、アジア系言語（日本語、中国語、韓国語）を提供する機関は少ない。（Monterey Institute, University of Hawaii at Manoa が、中、日、韓を提供する。）

大半の大学機関は外国語学部の延長線上で Translation の教育を提供しており、教科の内容は外国語の授業である。従って、ほとんどの機関は University を名乗っており、翻訳専門であることが名前からわかるのは Monterey Institute for international Studies , Graduate School of Translation and Interpretation だけである。翻訳をアカデミックな学問として、提供している機関は、Kent State University Institute for Applied Linguistics を除いて少なく、殆どの機関は Principle of Translation というような科目を1科目程度提供しているだけである。提供する科目数が10科目から15科目程度であるので、翻訳学のようなアカデミックな科目を多くする余裕がないようである。

Faculty Member の数は数名から数十名と多様であるが、多くても30名位である。ただしその教授数で平均10ヶ月の言語に対応しているから1言語当たりの教授は少ない、したがって1人から3人の教授が1外国語の初級、中級、上級を教えるようになっており、専門別（法律、医学、特許など）に教えるようになっていない。

加えて、多くの大学機関がプログラムを翻訳通訳プログラムとしており Interpretation を一緒に教えている。Translation のみに専門化していない。

### （3）バベル翻訳大学院との比較

バベル翻訳大学院は Interpretation を除いて Translation のみの専門の大学院である。全てのプログラムは、1科目（中日契約書翻訳）を除いて、英日、日英のみで、教えられており、アメリカの大学機関のように多言語となっていない。プログラムは文芸映像、金融 IR、医学・技術・特許、法律の4つの Major に別れ、それぞれが更に専門化した科目を提供する。

たとえば文芸翻訳には、ミステリー、ロマンス、ノンフィクションなどの科目があり、法律翻訳には、契約書、訴訟文書、会社議事録等の科目がある。言語においても対象文書においても、細分化された、実務に即した科目である。バベル翻訳大学院のプログラムは、このようにアメリカの大学機関の翻訳教育に比べて極めてユニークなものとなっている。アメリカの大学機関が一般的な翻訳者を養成するように設計されているのに対して、バベ

ル翻訳大学院の養成する翻訳者はプロフェッショナル・トランスレーターであり、非常に **Specialize** された翻訳能力を持つよう設計されている。

バベル翻訳大学院のプログラムを一般的なアメリカの翻訳教育機関の平均像と比較することは困難であるが、特徴を知るためにアメリカの翻訳教育機関のトップスクールである **Monterey Institute for International Studies** 及び **Kent State University** の 2 校と比較することにする。

### 3. モントレー・インスティテュートとバベル翻訳大学院の比較

Monterey Institute of International Studies は国際経営、語学教育、環境など 12 の Area of Study を運営しているが、その中の Graduate School of Translation and Interpretation はもっとも学生が多く、歴史も古い。アメリカの翻訳機関の中でも最も評判が高く Top Ten Translation School の筆頭である。そこでバベル翻訳大学院はこれと比較することにする。

#### (1) 立地、歴史、評判

Monterey Institute はカリフォルニア州中部の海岸のモントレーに立地する。モントレーには、合衆国防省の外国語学校が第二次世界大戦前から立地しており、またシリコンバレーに近いために通訳翻訳需要が多く、大手の翻訳サービス会社があることから翻訳者の人材リソースも豊富で翻訳を志望するたくさんの学生が集って来ている。Monterey Institute は 1955 年の創立であり 55 年の歴史を有する。グローバリゼーションの進展に伴い、国際的に通訳・翻訳の需要が増えているが、Monterey Institute は翻訳通訳の分野で最も評判の高い学校である。

バベル翻訳大学院はハワイ州ホノルルに立地するが、東京・大阪にもオフィスも持つ。バベル翻訳大学院の大学院としてのホノルルでの開校は 2000 年であるので大学院としての歴史は 11 年であるが、その前に 1974 年より東京において、翻訳教育を行っていたのでこれを通算すれば 37 年の歴史となる。

#### (2) 言語、就学期間、学位、専攻

##### (a) 言語

Monterey Institute で養成する翻訳・通訳者の言語は、アラビア語、仏語、独語、日本語、韓国語、中国語、露語、西語、葡語の 9 国語（対応言語は英語）である。

バベル翻訳大学院が教えているのは、1 科目の中日契約書翻訳を除いて、残りの 106

科目はすべて、日本語及び英語に関連した科目である。

(b) 就学期間

Monterey Institute は就学期間 2 年、バベル翻訳大学院の最短在籍期間は 2 年である。

(c) 学位

Monterey Institute とバベル翻訳大学院は与えるのは修士号である。両者とも大学 (Undergraduate) をもっていないし、両者とも博士課程をもっていない。

Monterey Institute はその翻訳通訳課程を終了した学生に次の 4 つの学位を与える。

MA in Translation

MA in Translation and Interpretation

MA in Translation and Localization Management

MA in Conference Interpretation

バベル翻訳大学院が与えるのは MS (Master of Science) in Translation である。

(d) 専攻

Monterey Institute は翻訳・通訳大学院の中で次の 4 つの専攻がる。

Translation

Translation and Interpretation

Translation and Localization Management

Conference Interpretation

バベル翻訳大学院の専攻は次の 4 つのメジャーにわかれる。

Literary Arts and Film Translation

Finance and IR Translation

Patent, Technical and Medical Translation

International Paralegal

(3) 教授陣及び学生

(a) 教授陣 (Faculty)

Monterey Institute の翻訳通訳グラジュエート・スクールの教授陣は 34 名である。このうち日本語教員の数は 3 名である。Instructors や Teaching Staff の数は不明。バベル翻訳大学院のプロフェッサーの数は 52 名である。このうち 2 名の米国人、1 名の中国人を除いて残り全員が日本人である。尚他に 30 名ほどのインストラクターが居る。

#### (b) 学生数及び出身国

Monterey Institute の総学生数は 860 人と公表されている。これは翻訳通訳スクール以外の国際関係などのスクールの数を含むから、翻訳通訳グラジュエートスクールの学生数は 400 名くらいと推定される。その中の日本語を専攻言語とする学生は 20 名位の模様である。バベル翻訳大学院に在籍している学生は 2011 年度で約 200 数十人である。

Monterey Institute の学生の出身国は 61 カ国と公表されている。米国人学生と留学生の割合は不明であるが、出身国は多様である。バベル翻訳大学院は、米国人 1 名、ロシア人 1 名、中国人 1 名、韓国人 2 名も除いて、全員が日本人である。ただし、これらの学生の居住国は日本国を含み 34 カ国に及んでいる。

#### (3) カリキュラム及び科目

Monterey Institute は詳細のカリキュラム、科目シラバスを公開していないが、年間スケジュール表、教授陣のコメント、学校説明を読む限りでは、次の通りである。

学生に教えられる科目は、専攻言語の翻訳・通訳を初級 (Introduction)、中級 (Intermediate)、上級 (Advanced) と進む科目を学んで行き、その中で Business and Economic, Court and Legal, Health and Medical, Literary, Scientific のそれぞれの Translation のスキルと経験も身につける。教材は専攻言語の教授が準備する。この形で提供される科目は 20 科目くらいである。プロフェッショナルな実務訓練が多く、殆どが訓練である。翻訳学のようなアカデミックな科目は置いていない。翻訳論文 (Thesis) は選択である。

バベル翻訳大学院の提供する科目は細分化された実務訓練コースが主力である。たとえば文芸専攻であれば、基本的な翻訳英文法のほかにロマンス、ミステリー、ノンフィクションなどの科目が選択科目として、提供されるし、リーガル専攻であれば、契約書翻訳、訴訟文書翻訳、会社議事録翻訳など法律翻訳が細分化した科目で提供される。したがって、学生は数多くの科目の中からより専門化した科目を選択できる、加えてバベル翻訳大学院の選択科目の中には IT テクノロジーを利用する科目や翻訳経営に関する科目が多く、翻訳者が実際に利用できるような科目が多くある。これはバベル翻訳大学院がインターネット

大学院であることからこのような翻訳者のテクニックに力を入れているためである。結果としてバベル翻訳大学院の提供する科目数は Monterey Institute の 20 科目に比して、87 科目と多い。したがって Faculty の数も多く 52 名に及んでいる。

#### 4. ケント・ステート・ユニバーシティとバベル翻訳大学院との比較

Kent State University はアメリカのオンキャンパスの総合研究大学の大手であるが、同大学の中で Undergraduate School と Graduate School の双方で翻訳を教えている。三つの Degree

BA in Translation

MA in Translation

PhD in Translation Studies

を出すアメリカの大学機関は Kent State University だけである。Kent State University はオハイオ州にある州立の総合研究大学で College of Arts (文芸教養学部) College of Arts and Science(文理系教養学部) College of Business Administration(経営学部)など 8 学部を擁するが、翻訳の学位は Kent State University Institute for Applied Linguistics(応用言語学研究所)が与えている。

##### (1) 学士号 (BA in Translation)

Undergraduate School で所定の学部教育に加え、Institute for Applied Linguistics の指定する翻訳科目を履修した学生に BA in Translation (翻訳学士) を与える。4 年間の Undergraduate 期間中の全部の科目を Institute for Applied Linguistics が提供するのではなく、学生達は各学部 (College) において、一般教養 (General Liberal Education)、言語文化 (Language Culture Cluster) 及び、特定専門領域 (Subject Area Specialty) を学び、これに翻訳 (Translation/Business Language:25 単位) を加えて、翻訳学士号 (BA in Translation) を得る。各学部で学ぶ専門領域は、ビジネス、会計、法律、国際関係、政治、コンピューター、その他科学技術などで、学年は各学部の学士号とダブルメジャーあるいはデュアルデグリーをとることが推奨されている。翻訳学位志向の学生にアンダーグラデュエートの期間中にこのような特定の領域 (Subject Area Specialty) の科目を取らせようとする理由は、「現代の翻訳者は一般的な翻訳ではなく、特定の分野の翻訳で訓練されるべきだ」という考え方でそのようなカリキュラムに設計されていると説明されている。

BA in Translation を取得した学生数は公表されていないが、MA in Translation へ進学する学生数から推定してそう多くはなく数十名の桁であろうと推定される。

バベル翻訳大学院は、Undergraduate School を有していないが、修士コースの入学試験において、4年制大学卒以上を要件としており、入学学生の殆どが、特定の専門の学部を出た後に有職者としての経験を経ている。

## (2) 修士号 (MA in Translation)

Kent State University Institute for Applied Linguistics は、2年制の Graduate School of Translation で、Master of Arts(MA) in Translation(翻訳修士)の学位を提供している。その内容は次の通りである。

### (a) 言語、学生、及び教授陣

日本語、仏語、独語、露語、西語、の5言語が翻訳修士号の対象言語として指定されている。MA in Translation の学生数は少なく、毎年20名から30名が入学し、卒業する。2011年の卒業生は、日本語専攻4、フランス語4、ドイツ語3、ロシア語2、スペイン語10合計23名であった。

教授陣 (Faculty) は日本人1、フランス人4、ドイツ人3、ロシア人1、スペイン人2に翻訳理論を教えるアメリカ人 Graduate Studies 教授2を加えて合計13名である。

バベル翻訳大学院の専攻言語は英日、日英のみであり、他の言語を有していない。

### (b) カリキュラム及び科目

Kent State University の MA in Translation のカリキュラムは、①各言語別の翻訳訓練、②翻訳実務、③翻訳学・理論の三つのジャンルにそれぞれの科目が配置されている。

各言語別(日、仏、独、露、西)の翻訳訓練は、一般文書翻訳実務 (Non-specialized translation practice)、文芸翻訳 (Literary and Cultural Translation)、商事・法務・外交翻訳 (Commercial, Legal and Diplomatic Translation)、科学・技術・医学翻訳 (Scientific, Technical, and Medical Translation)、時事問題翻訳 (Variable Topic)、ケーススタディ (Case Study Translation Thesis) の6科目が必修科目として提供されている。

翻訳実務の科目としては、翻訳のためのターミノロジー及びコンピューターの利用 (Terminology and Computer Application for Translation)、ローカリゼーション (Software Localization)、翻訳プロジェクトマネジメント (Project Management in Language Industry)、翻訳ドキュメントのコンピューター処理 (Documents in

Multilingual Context-Translation Tools) など 6 科目が必修または選択必修として提供されている。

翻訳学・翻訳理論については翻訳セオリー (Theory of Translation)、応用翻訳研究 (Applied Translation Research)、記号論 (Semiotics) などの科目がある。この翻訳学・翻訳理論の部分は更に博士課程 (PhD in Translation) で更に多彩となるが、これは Kent State University が翻訳教育を応用言語学研究所 (Institute for Applied Linguistics) から提供しているので Kent State University の翻訳教育の特徴である。学生は卒業のために修士論文を課される。

### (c) バベル翻訳大学院と Kent State University との比較

Kent State University が日、仏、独、露、西の 5ヶ国言語を提供しているのに対し、バベル翻訳大学院は、英語と日本語の科目に集中しておりたくさんの言語を扱っていない。しかしながら、英日語間における翻訳訓練科目のバラエティはバベル翻訳大学院の方がずっと大きい。バベル翻訳大学院は全 107 科目を教授陣が分野別に教えている。たとえば文芸、映像翻訳メジャーの科目ではロマンス、ミステリー、ドラマ、ノンフィクション等々と細分化されている。金融 IR 翻訳メジャーでは、金融証券翻訳、銀行翻訳、会計翻訳、国際金融翻訳等々が提供されている。特許・技術・医学翻訳専攻では、特許、技術、医学がそれぞれ、英日、日英と分化し且つレベル I, II と分けて教えられている。法律翻訳文やでは、契約書翻訳がレベル III まで分かれ、日英、英日で提供され更に訴訟文書、会議議事録など各位の法律文書の翻訳の科目がある。学生は細分化した大量の文書を翻訳することで十分な訓練を受けることができる。

翻訳事業に関する実務訓練の科目が多いのもバベル翻訳大学院の特徴である。翻訳に付随してシノプシス (アウトライン) ライティング、要約の科目がある。翻訳の生産性を向上するための IT 技術の講座も多く、翻訳ソフト基礎演習 (Using Translation Software)、テキスト処理入門 (Text Processing for Translation)、翻訳支援ソフト活用 (Technology to Improve Translation)、マルチステップ翻訳ワークショップ (Multi-step Translation Workshop)、ホームページ制作 (Building Website) などが用意されている。

翻訳業経営のための科目として翻訳ビジネス起業 (Starting up Translation Business) 翻訳ビジネス経営 (Translation Business Management) 翻訳者の権利保護法 (Practical Legal Knowledge for Translators) フリーランストラנסレーター実務 (Practices for Freelance Translator) などの科目も用意されている。

翻訳学・翻訳理論の科目としては、翻訳英文法 (Translation Grammar) 翻訳論研究

(Translation Theories)世界翻訳史(History of Translation in the World),英語史(History of English)、異文化コミュニケーション(Different Culture Communication)などの科目がある。

学生は卒業の要件として修士論文(Master's Thesis)又は修士論文に匹敵する修了作品プロジェクト(Graduation Project)を課される。

### (3) 博士号(PhD in Translation Studies)

Kent State University Institute for Applied Linguistics が提供する博士号 PhD in Translation Studies)は特定の履修年限は明示されていないが、MA in Translation 又は MA in Foreign Language を卒業して入学し、4年以上を要するようである。教授陣は前述の修士課程で記したメンバー(13名)であり、博士課程の学生は各言語を合計して毎年数名である。(2007年4名、2008年3名、2009年5名、2010年4名、2011年8名)

博士課程で提供される科目は、応用言語学(Applied Linguistics)、言語産業論(Language Industry)、翻訳教授法(Translation Pedagogy)、翻訳コーパス(Corpora in Translation)、翻訳認識論(Translation and Cognition)など応用言語系の科目(これは母体が Institute for Applied Linguistics であることによるであろう。)に加えて、翻訳学における時事的な題材を主題としたセミナーが随時提供される。対象言語ごとの教育訓練は博士課程プログラムの中に入っていない。学生は上記の科目履修(Coursework)を終わった後、博士論文(Dissertation)に着手する。博士論文のテーマは予め論文アドバイザーコミッティの審査を受ける。博士課程の大半はこの博士論文の研究と執筆に費やされる。博士号の卒業生の殆どは教授(他の大学で翻訳論を教える)志向のようである。

バベル翻訳大学院は博士課程を有していないので、ここでは比較はしない。

### (4) Kent State University の外国語学部について

参考までに Kent State University の外国語学部について説明する。これは、翻訳の学士号、修士号、博士号を提供する応用言語学研究所とは別の組織であり別に教えられている。しかし両者は緊密な関係を有している。

外国語学部

Kent State University College of Arts and Science(文理学部)の中の Department of Modern and Classical Language Studies (近代古典言語研究部門)がそれである。次の言

語学科がある。

サインランゲージ（手話）

アラビア語

中国語

古典ラテン語・ギリシャ語

フランス語

ドイツ語

ギリシャ語

イタリア語

日本語

ロシア語

スペイン語

スワヒリ語

これらの学科を終了した学生は **Bachelor of Arts and Sciences** の学位を得ることができる。これらの学科の教授陣は、翻訳の教授陣とは別である。たとえばこの外国語学科の日本語の **Faculty** は7名（教授1名、インストラクター6名）となっている。

バベル翻訳大学院は組織内に外国語学部を持っていない。

（以上）

文責 （社）日本翻訳協会 翻訳教育調査チーム